

(別紙)

## 自己評価および外部評価票

「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>理念に基づく運営</b>						
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の目標に添って職員個々が個人目標を立て、地域に根差した事業所作りに努めている。	運営推進委員会には民生委員さんの参加もあり情報交換もしっかりできている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に一度の運営委員会にて芹田地区の組合員さんに集まって頂き、ボランティアを集い、共に外出行事等に出掛け交流している。地区のお祭りや公民館主催の敬老会に参加した。	区費を支払、公民館主催の敬老会に3名参加した。 ゆうゆう祭りパンフを作成して地域に声をかけた。 梅の実がたくさんできたのでご近所に配ったり、こちらに来てもらったりした。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所のまつりに地域の皆さんにお越し頂き、認知症の利用者と関わる事により認知症への理解が深まるよう努めた。今年度は、地域の皆さんへ向けての認知症学習会が出来ていないので計画する。			
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度の会議で、事業所の実態を報告したり困り事の相談をし、その結果をスタッフ会議にて報告し、サービスの向上に繋げている。	家族の普段聞かれないことがらも聞くことができる。そのことはスタッフ会議などにも報告をして話し合ったりしている。	小規模だからこそ行える生活リハビリを説明し、家族にも理解してもらえるとよいと思います。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者には運営推進委員会で事業所の実情や取り組みを伝え、困りごとや分からない事は随時聞くようにしている。	運営推進委員会には市町村の担当者が参加している。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為は職員全員が理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる。しかし、利用者の安全に考慮して玄関の施錠をしなければならない時がある。	ベットの柵は転落防止のためしている。身体拘束はしたことはない。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の学習会を行い、スタッフ会議にて日々のケアの中でそのような行為が無いが、皆で確認を行っている。			

グループホーム栗田ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に関する学習を行なった者もあり、必要性は理解している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容の変更は昨年から無いが、利用者家族には、事業所の状況等を随時伝え、理解納得頂けるよう努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族代表1名に参加して頂き、率直な意見を出して頂けるようにしている。 また、利用者と家族の参加する行事を開催し、要望が聞ける環境に努めている。	運営推進委員会などの会議の場や面会時、行事の参加などの時など聞き取るよう努力している。意見はスタッフ会議などで検討されている。	訪問の少ない家族にもゆうゆうから何らかの方法で連絡とり、積極的に意見を聞いたり、情報提供をしたらよいと思われれます。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や個人面談等の機会に意見や提案を出して貰い、皆で検討し反映するようにしている。	会議や個人面談などから「役割分担」の申し出があり、たとえば行事など担当者を決めると積極的に役割をそれぞれが担っている。また会議などからだけでなく、日々のなかで提案したり、話し合いになったりしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務・残業状態は毎月本部に挙げ把握している。定期昇給を行い、意欲の持てる環境・条件の整備に努めている。 個人面談を行い、スタッフの意向を聞く機会がある。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	通信教育の法人負担や研修を企画し受ける機会を与え、個々の力量向上に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームネットの会からの情報を取り入れサービスの向上に繋げている。先輩同業者の助言を受けられるツールがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自分の意思を伝えられる利用者もそうでない利用者も、日頃からコミュニケーションを頻繁に取るように心掛け、要望不安を察知出来るような関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時には十分な要望等をお聞きし、また、家族とのコミュニケーションを密にし、要望・希望・不安なことを気軽に伝えてもらえるような関係作りにつとめている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの導入段階で家族・利用者の必要としている支援の優先順位に考慮しながら、他のサービス(訪問看護や薬剤師の訪問、受診など)も対応している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事づくりや掃除など利用者と共にやり、その方法や手順等を教えて頂く事が頻繁にある。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外泊や外出の機会を勧め、ホームに居ても家族の絆が薄れないよう努めている。また、家族が来所する行事の企画実施に努め、交流を絶やささないよう心掛けている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人が来所された折には、是非また来所していただけるようお願いしている。自宅への外泊や家族の事業所へ宿泊などにより馴染みの関係が途切れないようにしている。	月に2回、娘さんの帰郷に合わせて自宅に帰る利用者さんがいる。地元の利用者さんがほとんどなのでお盆のときなどはなじみの権堂などへ出かけている。美容院はなじみのところに通っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来る利用者が出来ない利用者を援助する事は、自然の中で行われるようになっており、利用者同士が暖かい雰囲気の中で過ごせる関係作りが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ここ一年は退去の利用者はいない。以前利用して頂いた利用者にはご挨拶状を出すなどして近況報告を頂いた。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン立案時には本人の意向をお聞きし、出来ない方には日頃の生活の様子から本人本位に沿うように検討している。	生活史を作成している。受け持ちのスタッフが兄弟や親戚などから直接聞き取りをして作成している。また『自分が役にたっている...』と思えるように接している。	自分が輝いていた(楽しかった、うれしかったこと)時のことなども思い起こして行けたらよいのではと思われま
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、家族からこれまでの生活歴の情報を収集し、個人史の作成を行った。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ一人ひとりが状況の把握に努め、共有出来るよう生活記録に記している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には来所時にお話を伺い、それを基にスタッフ会議にてカンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成している。	家族も共にみんなで話し合い、ケアプランは作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録にてケアの実践や結果を記し、日々の様子や気づきを記録として残すことにより、スタッフ全員が情報を共有出来、介護計画の見直しにも活かされている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族のニーズに応え、受診や送迎や床屋に来て貰う等の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	回覧板をはじめ、運営委員会や運営推進会議により地域の情報を得て、地域の中で暮らしを楽しむ事が出来るよう努めている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、日頃から診てもらっている協力医療機関にて受診をして頂いているが、状況の説明を適宜行い、本人家族の意向を尊重した形で医療が受けられるようにしている。	開所以来受診や往診をしてもらっている開業医がかかりつけ医となっている。入院となる場合でも連携はできている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは利用者の日々の体調管理に気を配り、変化のあった場合は訪問看護師に報告相談し、処置や受診の指示を仰いでいる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ここ一年間は入院した利用者はいない。入退院時には受け入れ医療機関に出向いて行く等して情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期における希望について伺っている。事業所としての方針や出来ることの説明を行ない、本人家族の意向に沿ったサービスを行えるよう取り組んでいる。	『最後まで見る』という方針はもっているが家族の方と話し合いをして最適な方法を選択していくようにしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護や往診などで緊急時の対応を学び、緊急に備えている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自動通報装置を設置し、実際に通報訓練を行った。緊急災害時の支援協力体制づくりに取り組んでいる。	本部や職員の携帯に緊急連絡が入るようになり、実際に通報訓練をおこなった。年一回は消防署より来て訓練をしている。	訓練の時には地域の人(近所の人)にも呼びかけると、いざという時に大きな力が得られるかと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にその人の立場に立って、対応・言葉がけをするよう努めている。	言葉の虐待に気を付けるための勉強会や話し合いは常におこなっている。具体的には子ども扱いはしない。失敗は咎めない。自分がされて嫌なことはしないなど。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いが自由に表現出来ない方は、選択肢のある問いかけを行う等して、思いを察しながら働きかけるようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは大体決まっているが、利用者のペースに合わせ、臨機応変に日課を決めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に合わせて、衣類を選んだり、好みに合ったおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいか、お聞きしてメニューを決めたりしている。自家製味噌や野沢菜漬けを皆で作る、出来る限りの食事準備・洗い物など一緒に行っている。	『何でもいいよ』ということが多い。いくつかのメニューを提示して選んでもらっている。ときには外食に出かけている。『地域のみそ造りに参加』したらとてもみそがおいしかったので今後も継続して参加することになっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事・水分摂取量を記録簿に記録・把握し、必要量が確保出来るよう個々に合わせた方法・品で提供している。体重測定を定期的に行って栄養管理に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	支援の必要な利用者は状態に合わせて支援している。		

グループホーム栗田ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、失敗がなるべく減るようトイレへお誘いし、気持ちよく過ごして頂ける支援を行っている。	定員が6名であり、また施設も適度な広さなため利用者さんの様子が把握しやすく適切にトイレ誘導をしてパットをはずすことができたり、車いすから歩行でトイレに行けるようになったりした。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のパターンや便の状態を把握し、必要な食事と水分摂取を勧め、便秘予防に努めている また、必要に応じて便が出やすい処置を行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせて、入浴出来るよう曜日等は決めていない。夕飯後の希望のある場合は無理なことがあるので、なるべく夕方の遅い時間に入っていただくようにしている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具を個々に合わせた状態に整え、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の準備は夜勤者が行い、スタッフ全員が服薬内容が理解出来ている。 服薬後の症状や変化を記録観察し、必要に応じて医師、看護師の指示を仰いでいる。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を踏まえた上で、今出来ることから役割と楽しみのある生活が出来よう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は庭に出て日光浴をしている。 また、月に一度は善光寺やお花見、外出食事会等の行事を行い、ボランティアさんに付添いをお願いし、家族や地域の方々と協力して出掛けるよう努めている。	庭で洗濯物を干したり、運動や歌を唄ったりしている。月に一回は車にのって外出をしている。(ボランティアさんの協力体制が整っている。	

グループホーム栗田ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、事業所の金庫にて管理させていただいているが、本人から希望のあった時や個人の買い物に出掛ける時は、お金を所持して頂くよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい希望の時は、状況を判断したうえで支援を行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆が使い易いように整え、季節の花や飾り、行事の写真等を展示し温かい雰囲気のある共用空間づくりに努めている。	古民家を改修型であるが非常に使用しやすいようになっている。たとえば玄関の手すりのつけ方や段差の解消、椅子の設置で外出が容易になっている。お花やアチコチに飾られている写真は笑顔が多く、あたたかな雰囲気である。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設置し、ゆったりとした空間を確保している。 利用者一人ひとりの居場所が出来ている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て、自宅の家具や使い易い家具を持ち込んで頂き、居心地の良い居室の配慮に努めている。	居室は基準より広めでゆとりがある。全室エアコンが設置され快適にすごしてもらっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置したり、危険箇所の無いように環境づくりに努め、一人ひとりが出来る事が活かされるよう常に工夫している。		